

学生レポーター  
が見た!



見て・知って・好きになる!

埼玉モダンたてもの散歩



## 彩の国さいたま芸術劇場（さいたま市）



2014年9月 訪問  
埼玉モダンたてもの学生レポーター  
法政大学人間環境学部 吉田 奈津美

「創造する劇場」として埼玉県から日本全国、世界に向け芸術文化の発信を行っています。

1994年に開場し、2011年には改修工事を行いました。

日本を代表する演出家の蜷川幸雄氏が2006年に芸術監督に就任し、何よりも地域の方々に愛される開かれた劇場を目指しています。採算の取りにくいものを取り上げることも公共劇場だからこそできる大事な役割だと考え、ラインナップや作品に相当の工夫を施しています。

劇場に一体感を生んでいる円形!!

劇場の中心にはロトンダと呼ばれる列柱と半透明のガラスブロックで取り囲まれた円形の施設があります。大ホール・小ホール・音楽ホールがロトンダに面していて、ロトンダは各ホールとそこに集う人々を繋いでいます!

これら3つのホールは用途に合わせ雰囲気が異なります。



### 〈荘厳な雰囲気の大ホール〉



大ホールは舞台のすのこまでの高さが20m、奈落が7mあるので外から見るとボコッと浮き出た形になっています。そのため別名フライタワーといえます。入口はシンメトリーが象徴的です。公演の際にはお花で埋め尽くされるそうです。中は写真だとすごく大きく見えますが、客席と舞台の距離が本当に近い!!最後列の席でも肌で感じるすることができます。演じている側にも見ている側にもうれしいホールです。

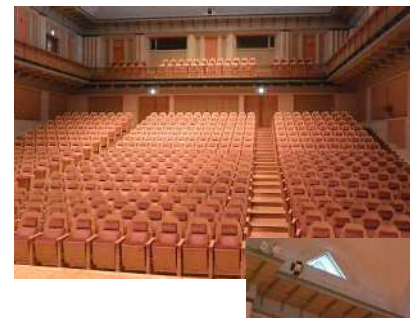


### 〈落ち着いた雰囲気の小ホール〉



小ホールは演劇・ダンスの他、落語やピアノの発表会でも使われています。この客席が舞台を三方向から囲んでいるため、観客の方にとっては同じ公演でも席によって違う味わいがあり何度でも楽しめます。しかし演者にとってはプレッシャーみたいです。

### 〈温かな雰囲気音楽ホール〉



演奏者が舞台上がる際、扉をあけて入る仕組みが珍しいです。また、日光を取り入れるための窓がついており、光を取り入れることを意識していることが大・小ホールとは違うところです。またとっても響きがよく、このホールを好む演奏家も多いそうです。楽器の中に皆がいるという不思議な感覚に包まれること間違いなしでしょう。

## 芸術劇場ならではの工夫



通路は、すぐ横の壁の向こうにある音楽ホールにヒールの音などが響かないように改修してあります。



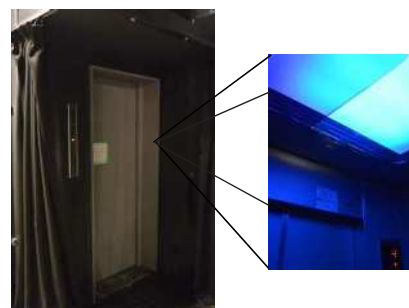
ウッドデッキと芝生の下は映像ホールになっています。この空間は、憩いの場としての利用価値もあります。



この分厚い板はなんだと思いますか？これは音楽ホールの扉なんです！女の人だと開けるのが大変。閉める音が響かないよう工夫されているそうです。



小ホールの奥のシャッターには風によりシャッターが揺れて音が出ないように棒が取り付けられています。



ここは大ホールの裏にあるエレベーターです。外側はカーテンで内側は青白い光によって、客席に漏れないように細心の注意が払われています。

さいたま芸術劇場には、稽古場や工房があり、本番と同じようなセットで練習するということがいつでも行える強みがあります。そして今までにない舞台作品を作り出しています！

## 裏側大公開！！

### 〈大ホールの上側〉



大ホールの上には多くの設備が。まだ上にも機械が？と驚かされました。

### 〈大ホールの下側〉



下は奈落と呼ばれます。右側の写真に写っている台が上下することで演出に工夫が生まれます。